

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 4 月 15 日現在

機関番号：13901

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2013～2014

課題番号：25590237

研究課題名(和文) グローバル人材育成におけるASEAN留学の必要性とその方策研究

研究課題名(英文) The need for ASEAN study abroad and its policy research in global human resource development

研究代表者

星野 晶成 (Hoshino, Akinari)

名古屋大学・国際教育交流本部・講師

研究者番号：40647228

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,000,000円

研究成果の概要(和文)：大学生は、「東南アジアにおける英語使用」と「東南アジアに精通することの意義」が不明確になっていることが原因で、東南アジア留学の選択肢が広がらない。そのため、東南アジア留学の位置付けがまだ混沌としていることを本研究では示唆した。こういった学生の考え方に対して、現在のASEANへの社会的要請に合致した留学先選択を促すために、「世界英語」、「教育環境」や「日系企業動向」等に関連した教材を作成し、活用することで、学生の意識がASEAN諸国に向くことを確認した。また、本研究は、2本の報告書と論考が掲載される形で終結し、さらにH27年度から3年間、科研一若手Bとして採択され、発展研究につながっている。

研究成果の概要(英文)： Japanese university students hesitate to study abroad in South-East Asia, due to their impressions such as "less frequency of English use in the region" and "lack of meanings to be familiar with the region." In this research, it suggests that the significance of study abroad in South-East Asia has not been established unlike that in USA or so-called English speaking countries. The research also implies that by providing students with information such as the concept of World Englishes and Japanese corporative movements in South-East Asia, their mindset have been influenced and gradually started including a choice of study abroad in South-East Asia.

This research ended up publishing two papers. Moreover, it has led the development of the further research related to this topic. The developmental research has been accepted as the Grant-in-Aid for Young Scientists(B) in JSPS for the period of 2015-2017.

研究分野：国際教育交流

キーワード：国際教育交流 海外留学 グローバル人材 東南アジア

1. 研究開始当初の背景

今日、様々な要因から日本人海外留学者数は減少する一方で、国際的に ASEAN 諸国とその出身人材の存在が顕著となり、日本人学生と国際競争している。近年の文部科学省の大学に対する「大学の世界展開力事業 (ASEAN)」や「グローバル人材育成支援事業」の助成金事業は、この現状を踏まえて、ASEAN 諸国で活躍する人材育成が社会的要請であることを強く裏付けている。ところが、同省の統計 (2012 年 4 月) では、日本人海外留学者の主要留学国は、依然として欧米と中国が大半となっている。つまり、社会的要請と日本人学生の留学意思・態度は関連せず、現状に合致したグローバル人材育成が実現してない現状がある。

2. 研究の目的

現在、日本における ASEAN 諸国への社会的要請と日本人学生の留学意思・態度決定要素は乖離しており、この地域におけるグローバル人材育成の実態が伴っていない。本研究は、日本人学生の欧米留学志向の変革を試み、グローバル人材育成の場として、ASEAN 留学が社会的要請に応えることの実証研究、及び ASEAN 留学の必要性と意義普及のための授業カリキュラム・教材開発とその効果検証を目的とする。

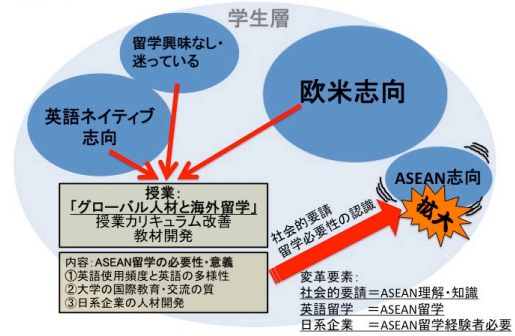
3. 研究の方法

ASEAN 諸国の情報を収集・調査し、ASEAN 留学が社会的要請に応えることを検証する：

- ① 英語使用頻度と英語の多様性の文献研究・実地調査 (平成 25 年度重点研究)
- ② 大学の国際教育・交流の質の情報収集・実地調査 (平成 25・26 年度重点研究)
- ③ 日系企業の人材開発の分析調査 (平成 26 年度重点研究)

上記情報を、申請者が担当する授業、講座、留学説明会、そして外部講演に取り入れ、学生の留学意思決定に有効なカリキュラム改善、教材開発を実施する。そして受講前と後の学生の意識変化を検証する。

留学意思・態度決定プロセスの変革



4. 研究成果

大学生は、「東南アジアにおける英語使用」と「東南アジアに精通することの意義」が不明確になっていることが原因で、ASEAN 留学の選択肢が広がらない。そのため、ASEAN 留学の位置付けがまだ混沌としていることを本研究では示唆した。こういった学生の考え方に対して、現在の ASEAN 諸国への社会的要請に合致した留学先選択を促すために、「世界英語」、「教育環境」や「日系企業動向」等に関連した教材を作成し、活用することで、学生の意識が ASEAN 諸国に向くことを確認した。

その一方で、日本学生支援機構 (JASSO) の大学生の海外留学者数の推移を見てみると、近年、ASEAN 諸国へ留学する学生は急激に増加していることもわかった。また、その増加の中で、学生の 8 割が、1 ヶ月未満の滞在であった。それ以外の統計や、学生へのインタビュー等を通じて、東南アジア留学には、以下の傾向があることが分かった。

① 「訪問・体験試行」型

これまで海外滞在中をしたことがない学生が、その第一歩として簡単に参加でき、短期間で語学学習や異文化を体験できる留学。

② 「ステップアップ」型

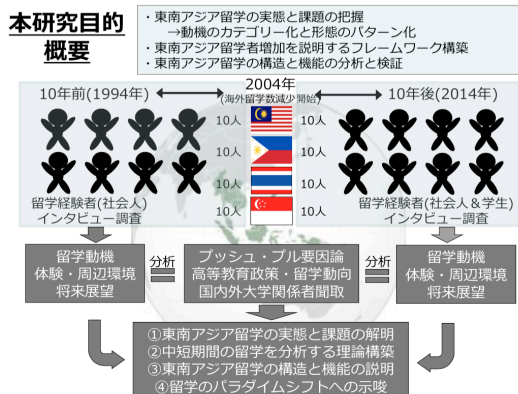
将来計画の中に長期留学(学位留学や交換留学)があり、それを実現するための語学向上や異文化体験を安価に経験するための踏み台にする留学。または、交換留学の長期留学から帰国した学生が、卒業までにさらなる海外経験を求めるための留学。

③ 「譲歩」型

費用、期間、語学力などの障壁により希望する留学(例:北米留学)が実現できないために、妥協案としての留学。

大学生個人に焦点を当てると、ASEAN 留学はまだ定着していないようにみえるが、統計から判断すると着実に増加しているという、相反する結果が出た。

また、本研究では、ASEAN 留学経験者の声を直接反映することはできなかったので、同研究をもとに、今後は経験者の声を集約して東南アジア留学の実態と課題を調査していく予定である。本研究が基盤となり、平成 27 年度から 3 年間、科学研究費補助金(若手 B)「大学生の東南アジア留学の構造とその機能に関する実証的研究」として採択され、発展研究として展開する予定である。



5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 2 件)

1. 星野 晶成 (2015) 「日本人大学生の東南アジア留学の現状とその特徴」 『留学交流』 Vol. 47 pp. 31-47.

2. 星野 晶成 (2014) 「名古屋大学生の東南アジア留学に対する意識調査」 『名古屋大学国際教育交流センター紀要』 (1) pp. 33-40.

[学会発表] (計 1 件)

1. 星野晶成 (2014) 「日本人大学生の海外留学への一考察 -東南アジア地域に着目した留学の現状と学生の態度について-」, 日本比較教育学会年次大会年 口頭(一般)

[図書] (計 0 件)

[産業財産権]

○出願状況 (計 件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

出願年月日:

国内外の別:

○取得状況 (計 件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

出願年月日:

取得年月日:

国内外の別:

[その他]

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

星野晶成 (Hoshino Akinari)

名古屋大学 国際教育交流本部 特任講師

研究者番号：40647228

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：